

青山御流

活花手引種前篇 五

7多9
2848
10-5



門ヲ多
2848
10-5



○艸木剪時手當圖方事

○艸木類夏より秋迄。別の子類に。花葉乾露有内剪抹
露。又夕方赤くは蒸^く及露^つ帯^る頃^{より}。日光昇^る里^は
露^つ乾^る及^て後^に剪^る取^るハ。花葉^痛久^く保^つ保^つ。木^は乾^る類^は通^も同^じ
新^也。尤^も用^に枝^葉ハ^良生^に以^て除^去す。遂^に根^木より清^く
水^と灌^水かけ。床^に編^み込^めハ^風赤^く水^を有^る土^地。又^板間^板
小^水解^凍納^る瓶^類水^に根^木と^搦へ^涼く^活直^す。一旦^且
水^を揚^ぎき^て晝^に乾^か間^ハ水^を有^る所^に。花^を搦^り扱^ふと
あ^て。扱^く直^も少^し。但^は秋^葉青^葉根^に。朽^る露^を灌^水化^葉
乾^る。根^木。又^むれ^る。根^木。薄^く履^ひ直^も少^し。然^るに^七月
廿^二夜^ハ。晝^中。赤^風有^る。赤^風ハ^自花^葉乾^て。水^を揚^ぎ通^る。赤^風

床に挿す。多量と。上より挿して。挿し盡す。右二枝三枝のものは
火氣煙杯の。多くむれさる。下へ挿す。手摘花杯に清水を

貯へ。花杯下へ挿りて。葉様と。花の色と
妙味と。水多き。瓶へ挿し。汁。殺口。保なり

○杜若。花菖蒲。あやめ。いらもち。梅。扇。杯。甘。小。花。酒。小。甚。ふ
同也。始終。去。速。小。ま。く。活。盡。す。斜。く。挿。く。並。時。花。首
曲り易く。花。背。て。笑。ふ。よ。く。挿。く。並。く。細。手。竹。槿。の。枝
挿。法。並。多。に。引。さ。紙。を。打。葉。少。く。ゆ。り。結。つ。け。水
深。く。活。盡。す。心。曲。り。て。面。白。き。葉。も。あ。り。也。大。概。ハ。惡
く。癖。付。也。葉。も。一旦。水。揚。ぐ。ば。挿。し。て。挿。く。葉。を。打。す。

○仙菊。梅。多。かん。ひ。紅。顔。或。杜。若。花。菖。蒲。百。合。紅。顔。同。き
き。厚。花。に。水。を。僅。き。懸。ぐ。一。次。若。葉。を。帯。ひ。の。速。く。振。り

拂ふ。塵。杜。若。紅。顔。花。に。露。あ。れ。ば。兩。扱。内。も。め。易。く。せん
花。の。彩。り。色。損。じ。百。合。の。葉。紅。顔。花。に。ま。み。水。仙。の。花
重。く。懸。濁。く。と。なり。生。葉。紅。く。水。と。打。ぐ。是。亦。乃。花。と。
以。何。の。柄。別。用。り。病。々。と。い。て。後。葉。様。と。一。次。若。葉。を。帯。ひ。の。速。く。振。り

○冬。より。初。雪。花。梅。枝。水。仙。ハ。勿。論。其。外。木。州。在。り。日
文。能。志。の。下。又。ハ。陽。春。進。く。暖。く。成。る。所。へ。挿。ぐ。水。凍。る
に。以。つ。る。花。葉。枝。茎。も。凍。て。水。氣。通。せ。ざる。故。痛。ミ。萎。び。易
し。結。石。枝。葉。も。剛。く。なり。て。挿。ま。し。お。ま。す。也。一。次。若。葉。を。帯。ひ。の。速。く。振。り
と。水。仙。杯。の。別。々。要。り

○い。ご。木。肌。石。榴。花。梅。の。と。が。針。と。し。て。取。捨。つ。又

百合の開花ハ。葉とてさみ控を治す。仙菊ハ。挿す。花
 乃重小。虫居之。桃の枝少ハ。竹毛。葉の葉有リ。何處も能
 取去。適有風弱ハ。葉ハ。毛虫。此子。葉長ス。者之。花能ク
 改。後。床小。移す。

○夏秋菊ハ。挿と其根と。葉或熱湯に入。後葉水とて
 床小。移す。夜ハ。朝夕ハ。水溜く。活也。萱の同ハ。古地。板の
 同杯に。初ノ如ク。多。高して。移せ。葉ハ。水打事也。移り蟹
 乃れハ。葉むれ腐也。但秋。連ハ。風強キ。昔ハ。移す。一。葉ハ
 花床に。移せ。も。如此。これハ。保久。

○秋の菊ハ。挿て。宜。修。活。通。能水と。揚る。これハ
 二岐。三岐の。長キ。枝也。ふ。蟹。葉。前ハ。夏秋ハ。叶。葉。并。に

水揚が。つけられ。其。所。と。能。打。ひ。く。又ハ。挿。挿。か。さ。め
 と。去。一本。多。小。葉。能。水。と。揚。也。但。葉。ハ。水。に。ひ。く。さ。ら。か。し。

○夏。宜。中。杯。に。遠。方。より。取。寄。又。葉。ハ。以。事。あり。叶。本
 亦。以。毎。叶。秋。能。青。葉。杯。に。水。と。打。り。け。葉。少。キ。花。葉。と。纏
 其。上。と。莞。筵。多。楢。の。類。に。包。こ。白。地。に。日。に。あ。て。さ。る。根
 に。送。り。ぬ。に。腐。ひ。し。う。厚。其。向。と。持。直。キ。花。の。活。と
 ある。可。ク。葉。小。水。と。灌。ぐ。一。日。暫。冷。子。西。に。懸。氣。と。さ。由
 後。十分。に。送。水。也。又ハ。昔。の。首。際。と。ひ。く。暫。魚。後。引。活
 宜。并。横。と。一。葉。也。花。の。活。萎。弱。不。活。て。勤。勤。也。

○叶。葉。ハ。標。板。内。あり。多。能。懸。あ。て。水。か。さ。き。蒸。ひ。る。
 中。不。挿。入。れ。る。同。也。折。く。葉。と。打。し。挿。上。手。と。引。て。後

瓶内乃水と。同季相求て。能活生玉馬たり

○冬にそ、意國、他場へ送らば、水、或、莞、蓬、系、箱、杯、に、
送、重、も、包、も、よ、く、風、定、に、通、ら、ざ、る、根、中、て、ま、り、以、て、
水、仙、ハ、勿、論、と、も、よ、く、言、道、葉、榮、杯、以、玉、也、也、物、ハ、蒼、勝、系、
と、能、水、あ、け、さ、せ、く、後、若、或、太、竹、と、割、合、く、其、内、に、諸、
目、注、し、て、其、上、と、莞、蓬、杯、中、て、包、も、ま、り、十、日、も、其、り、と、
言、え、程、者、極、事、を、一、又、極、極、有、元、杯、も、二、日、中、も、よ、く、
注、也、て、後、大、根、と、長、さ、三、四、寸、宛、に、切、切、し、一、極、注、し、
水、に、注、け、丈、小、刺、て、若、に、注、注、れ、ら、五、七、日、注、道、中、ハ、極、せ、
此、行、物、也、又、あ、三、日、の、取、ハ、厚、紙、と、志、し、根、を、包、も、よ、く、何、も、
蒼、勝、系、用、と、探、探、し、し、尚、時、宜、に、隨、而、病、免、る、也、

○ 坤花何れと水揚する物也。根と葉一又ハ懸湯多製つ
け、或冷水へ後及、亦茎別き物、瓶杯ハ湯水に浸置も、
○ 何れととも、其、多、さ、す、坤、ハ、水、あ、け、難、し、丈、中、水、中、小、合、
不、の、旨、と、堅、ふ、二、日、も、三、所、も、小、刀、目、を、入、き、さ、す、也、又、心、を、
と、み、通、し、し、も、一、或、折、ひ、き、さ、す、也、懸、湯、坤、木、在、に、枝、葉、
懸、湯、な、る、時、ハ、水、氣、起、り、難、し、瓶、に、三、分、一、或、抽、以、り、
中、隔、も、よ、く、な、る、葉、ハ、取、去、り、し、若、く、ハ、水、あ、げ、し、
○ 探、て、折、り、し、物、ハ、火、不、あ、ぶ、り、或、極、湯、水、に、入、て、逆、吹、
づ、尚、若、き、抽、根、ハ、探、る、場、前、然、長、類、不、夜、也、能、あ、る、
め、漸、抽、し、し、頃、小、花、中、で、包、も、氣、力、を、好、く、み、ん、静、す、
探、暫、特、在、て、後、よ、く、ゆ、る、め、は、小、冷、水、に、注、し、し、さ、む、る、也、

待てあげて。探とらへ。又火おて花扱も扱。多小
く。勢張直屋。女直るなり。木の根。別はかけても水
とあけるなり。尚皮目石後仕方多し

○蔓也。前夕小纏ひかみきる。茎と。思ふ。根もさき。そな
ち。茎とつぎ出さけ直し。或葉吹小葉。約。挿瓶。杯に
根と束て。水深くつく。根小階直より。井戸。泉水。杯乃水氣
の流き上さ。が直。流葉。き。不ひてし

○茎小竅有扱。何ふてと。花と先に水と流小。蓮河。昔の
萎るき扱と。之。性。の。体。小。全。体。と。根。く。剪。て。水。廣。く。流。き。瓶。小。
熱長と。さ。す。水。中。へ。挿。入。了。花。と。中。ま。る。多。分。保。扱。之。は。外。表
ひ方。色。く。有。れ。在。畧。之。
但用系を外何ふてと茎
言く流水を保扱別傳有

○菴酒。ふつ。後。水。小。扱。竹。の。葉。ハ。塩。水。砂。糖。水。又。酒
おても。つ。夜。つ。直。く。後。用。屋。然。是。是。小。一。時。此。後。之
中。保。方。別。傳。有。之

○葉蘭。き。ほ。り。ゆ。芭。蕉。ど。ん。ど。或。芦。荻。蒲。芭。志。ヶ。捨。翁。一。之
の。新。葉。先。延。ひ。或。葉。之。悪。く。ハ。葉。秋。く。目。障。さ。る。根。小。女。ハ。節。也
経。ひ。月。て。も。直。し。研。膏。の。害。小。ハ。な。り。也

○空。國。杯。中。て。瓶。水。凍。つ。る。ま。る。瓶。中。小。瓶。一。挿。入
厚。大。抵。拒。く。中。之。な。れ。其。空。の。瓶。弱。小。な。れ。ハ。一。概。心。の
ん。得。屋。く。也。但取鹿の汁と研加ゆれハ
不凍とも是ハ活くも也

○水凍る。菴ハ。竹。花。合。勿。論。磁。瓶。杯。も。割。け。損。る。者。之。中。小。水。扱
の。銅。筒。と。入。ま。じ。竹。の。筍。ハ。冬。月。より。二。月。迄。ハ。見。合。及。是。瓶。用。人。と

- 三枝九体变化の事
- 重瓶花形末の事
- 二重三重上下屈伸の事
- 丹の花形三等の事
- 平瓶砂鉢花俵の事
- 花形高低の事
- 画花取合の事
- 今席魚物の事
- 墨薄板盆搦の事
- 籠不用薄板の事
- 大意五ヶ条の事
- 掛瓶枝葉長短の事
- 籠手付花葉の事
- 平瓶掛盆取合花の事
- 木沖二種並様の事
- 床前定規の事
- 盆物小花の繪有時の事
- 繪物小待花の事
- 墨形小待墨厚板の事
- 書院向の花の事

種


花溜 手桶



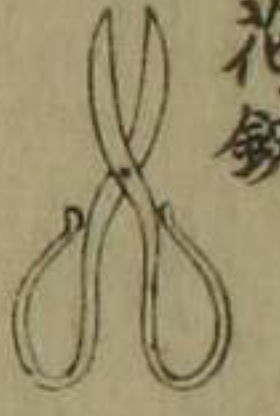
花溜 瓶



花溜 瓶



花鉢



狭口の鉢底小延ひの事
入りやまゝこれハきひ鉢
指印中下小


花を挿入し水入添く上下作り太細葉之根に
搦手付花を挿下おきてしける

瓶も此口の次ハきひの事
うは廣ハ花を挿しける

鉈



鉸




小刀



小刀の柄握りて水し候
候より夫より鉸力入候
鉸は目と口の細うた
枚数つりて候
あるは此が、まぬ

花鉢



削臺



削臺ハ丸角
とに堅木の
凸方、平さ
物

○一花一葉のり

以上三十三箇條首の巻目録

○祝儀一等香懸花の事 ○祈禱向の花のり

○婚姻の花のり ○新宅移徒の花のり

○神前社頭の花のり ○佛前退鷹中座の花のり

○卓下待香香木のり ○むと籠とに水打時節のり

○達棚等待花のり ○城中の花のり

○茶席の長のり ○お座の長にほのり

○庭前の長座と移節のり ○客へ花可坐のり

○号前坐席の長にほのり ○玉掛順送始末にほのり

○瓶中水四時にほのり ○花配留高下忌ふり事

○恙小應まゝ香懸板のり ○約款上下組方のり

○き高の賜物扱様のり ○四季記当忌敷のり

○花配留用ひきまゝのり ○花見様おほのり

○五節の巻のり ○中元ハ朔名月の巻のり

○木州様方おほのり ○惣瓶お打寸尺き下のり

○約花配お打刻合のり ○掛飾卓飾木のり

○惣物号卓次方のり ○丸作社南園繪のり

以上三十二箇條尾の巻

○性密譜傳箇条首尾目録

○梅の事 附異形口授の折 ○椿の事 附異形口授の折

○桃の事 ○海棠のり

○柳乃事 附異れ同枝の種

○枇杷柏木の事

○躑躅木の事

○擬寶珠の事 附異れ同枝の種

○大小菅の事

○山吹鈴掛の事 附異れ同枝の種

○芍薬の事 附異れ同枝の種

○花菖蒲の事

○燕子花の事 附異れ同枝の種

○櫻三葉の事

○牡丹三葉の事

以上十五箇條之首の巻

○菊の事 附異れ同枝の種

○紫苑の事 附異れ同枝の種

○檜扇の事 附異れ同枝の種

○梅嬢の事

○南天の事

○蔓州右旋左旋の事

○萩の事 附異れ同枝の種

○芦の事 附異れ同枝の種

○蘭乃事 附異れ同枝の種

○竹乃事

○女弟木の事

○川骨の事

○蓮九尺の事

○紅葉の事

○水仙の事

○柞木水揚の事

○季月配糸巻の事

以上十五箇條尾の巻

○口傳活箇条同符

○松林木の事

○萬年春の事

○出生見分の事

○大小應分の事

○色艶不言の事

○三折長短左右定規の事

○加持祈禱の事

○漆除順送の事

○婚姻真の式飾花の事

○真の飾三具足木の事

○斎檠直板長短の事

○竹筥墨法十三等の事

○花臺高低寸尺の事

○約板上下寸尺の事

○席板方圓厚薄寸尺の事

以上十五ヶ條口傳禮儀

○別々盥觴此一註有々事家よ不他

右筒條目錄の巻く、替古の原簿と直に載るゝ
事、以て其を以て傳へるゝにあり

○活花校説同封

○或時意友、永某と云ふる人、來て去、我多年活卷小志
有て、學ひむと欲され、兎角世業にいと由た、唯流
に思ふの、然る空しくや、むも幸意なき、ねを、此以長
板に友として、籠をの、一冊を、求て、窺へ、唐に
書ふ、傳説のみうて、卷は、是有物の、見あす、亦傳集
の、固も多、され、在、流、義、の、秘、る、る、を、を、解、變、り、傳、説
おも、匿く、して、不、富、の、を、たり、何、事、を、是、何、れ、く、非、た、る、也
昔、て、之、趣、斗、も、す、我、幸、は、り、た、る、む、願、は、告、玉、え、る、事、也
答、唐、の、事、は、い、が、た、る、故、は、何、國、の、答、は、師、の、傳、へ、る、事、と
なれば、何、事、も、校、を、く、一、人、の、是、也、と、傳、ま、る、也、亦、ひ、と

の是非之を安んずるなり其學互味して他の事も
さうなり然も強て無量とあり我が預りする所の
ハ、常小態して若く是者也

○和漢口傳の各洲流り変化の事

○古同云世尔治花と敬く。任淳阮より久し。就中此國
ハ、寧靜の余化小進ひ進き世列して流行し或は傳と
ひやして。越と異より。故小生つ小入りされハ容易小知
るころあざらひ。亦中華の人く能。殆ど之傳ハ大古
高低譯島俯仰斜正或蕃瘦而對一律兼傳等乃制禁と
先くして。教箇の感も五。又一一定の業規たり。とて
有て。考て口授秘傳の法ハ又く。法を教ふ所の物狀

志うして。倭敵類の隔ある。いふなる。取不傳る也

答 天地不在今の違ひなりれ其某物ハ其某物なり。常
と以是ハ。人情自變化ハ其ハ。易く。事物易形ハ。時
所の風俗ハ。兼て。克く。の法と備へ。用と多ク之。多とて
経經不有物有則と。説是。佛經ハ。隨宜説法と。亦ハ。小
となり。亦中。古支那人の。取られ。治奉ハ。佛ハ。下業頭
小並。獨不。放情と。考みし。或。臺坐ハ。粒瓶と。列ぬる。と。わ
て。と。芝賀の。式ハ。か。く。強く。人小。む。く。されハ。法。式と
味く。亦一。本の。紀。ある。古。其。毛。之。之。勿。論。世。中。國。の。法。を
と。て。其。往。古。ハ。鬼神。子。齋。祈。住。卷。の。薦。とな。る。を。其。之。法
式。う。と。拘。り。さ。り。も。い。つ。々。大。師。存。人。の。傳。ふ。れ。玉。ハ

操と。祝ふに及ら。祝ふ可人も待と。學の。竹本の名と。識と
説玉つら。柳竹本山野小萌と。之と。而。病の。洞窟と
得され。養生の。予。名。忠。義。小。徳。と。い。へ。り。と。也。
水の中。ひと。離れて。す。勢。と。保。と。あ。は。け。ず。然。ハ。る。病。ハ
竹本の父母。水。瓶。也。の。君。様。と。う。物。く。好。く。樂。む。可。う
して。も。味。ひ。と。去。り。徳。と。是。と。汲。理。と。推。義。と。去。り
て。父母の大恩と。願。え。君。上。の。惠。を。重。き。子。と。辨。へ。ん。然
時。ハ。忠。孝。の。導。も。是。より。興。了。む。所。一。樹。不。以。其。時。非。孝
と。孔子も。祝。せ。ま。へ。り。右。に。樹。と。新。ら。葉。と。振。り。と。と。を。功
あ。う。バ。時。と。ま。へ。り。枝。と。利。也。と。常。て。思。神。不。捨。け。祖。廟。不
と。む。け。て。涼。教。と。興。し。お。と。ひ。と。た。ま。ひ。追。善。の。賜。と。立。し

君親小薦。て。も。意。と。慰。め。老。幼。小。幼。と。く。も。用。と。た。め
ハ。忠。孝。を。家。の。端。を。く。す。操。と。伸。く。善。と。操。て。神。正。は
失。の。終。末。と。祈。て。も。身。と。論。ハ。教。と。い。も。守。り。況。小。佛。ハ。三
を。水。代。の。法。あり。又。此。神。國。の。一。年。の。祀。と。後。一。ね。と。件
との。操。と。立。く。邪。常。無。業。と。お。ほ。く。専。ら。御。ま。も。各
和。睦。の。務。義。と。極。然。ハ。物。と。て。教。小。あ。う。存。る。な。り。と。し
て。忠。孝。の。道。離。く。く。あ。う。を。形。と。て。務。義。と。備。く
さ。う。い。ら。る。人。と。也。と。教。と。は。ま。と。家。せ。け。ん。の。備。増。の。流。ハ
根。と。節。菊。虎。の。尊。尊。小。を。草。と。宜。小。の。新。を。ん。孟子曰。教
人。以。善。謂。之。忠。直。躬。と。存。愛。と。い。當。流。の中。祀。希。尹。國
公。古。語。と。引。ま。い。て。人心人面の。ま。な。さ。し。め。り。各。所。一。と

彼亦亦然り。就中。五倍小人の常として世蒙る居
是不利歎みおとくのみ。風船より進み名聞も奪る。俗る
大道小技も扱ふ。其も亦る古も後ひ。秘旨懲惡の居
とかく諭は。重佛の流。國津神の未だ。在に我らも
既登る。志願ハ三五の教訓と附屬は。ねむる。此も學むて
其之と悟る。い。争て。其徳や。其。邪。ぞ。小技。と。捨。て
易曰善不積不足以成名。惡不積不足以滅身。釋經曰
漸漸積功德皆成佛道。と。や。然。小。人。凡。夫。ハ。小。善。と
以。益。かり。として。來。す。ハ。殆。惡。と。積。小。途。々。と。傳。一。身。
之。美。小。さ。さ。この。お。さ。し。ん。然。小。わ。り。て。不。物。く。大。小。に。在。り。
憲法の術と。法。準。繩。の。次。中。と。い。ふ。道。と。立。る。事。

天の物小解して命する。前之孟子謂教亦多術矣。とハ
外なる。じ。壁。之。重。人。の。也。藉。と。清。一。き。り。も。行。は。れ。え
則小人佛の経論と身小有ふよりとも迷へる。時ハ凡夫
なり。能る。と。て。を。せ。活。小。は。と。釋。して。名。不。用。され。ハ。流。小
宰の白雲を眺むる。小。物。一。縷。細。なる。も。是。と。外。で
積。ハ。大。教。の。錫。雷。穿。石。統。所。幹。と。ハ。漸。魔。の。功。有。り。或
人の。聖。子。お。こ。ま。く。は。ゆ。は。る。と。い。ふ。と。て。も。ん。う。一。れ。歩
め。う。一。と。も。是。お。の。ま。と。味。く。て。辨。ふ。と。も。な。り
大小ぢふ。ま。ま。の。體。を。以。積。と。用。と。は。る。なり

○神佛供養の毎時後祀小擬奉

○同云 志いりたる徳小なり神佛小手向依養の宗上

とハたせ給亦於容と作り法度設計曲直伸へしに
 せよと戒しめ身を慎み。人と教ふはゆるゆへ人の何事のふはれを
 答に花と鬼神不持け花者として塔廟を備へ休養の才
 一といふ。花に佛をさしめて容易を述く。唯華芳く人
 の疾病を愈す。或ハ晴雨を乞ひ苗稼滋茂と祈禱武
 ハ畜獸調伏。怨敵退散の咒咀ホホ玉と法を心水に擲
 火にかまし偈と誦し。文と唱へ。空に翫し。地にまけハ。其事
 必成就は。佛説諸經の朗之尚大衆小至てハ。必其志を
 指て述葉子法の大意と悟し。め。返小を道と符属し玉ひ
 一より。末世不達の龜鑑となれり。此法國ハ。秘傳
 の秘をよむ。三十一文字に擬へ。本末終始と一。天神乃

事未なる美衆の實祚と勸めあり。善く聖帝の法直を
 花に。当神社祭記を用ひ或は。腰小様とて。其
 の態と祝し。豊饒安全の祈禱の具小加ふ。人君子を
 州本の形状。其実の標をせし。詩小賦。歌小つりて
 勸懲の道と諷誦。よふ。孝經曰。移風易俗。莫善於樂。と
 説ふ。よ。聖教よく。人身を護し。舞樂本を。用を。慰む。然と
 つ。初。我小舞。ハ。奴僕。況。不。等。教。と。唱。は。何。と。さ
 惑して。心。依。福。而。の。和。を。真。心。能。を。稱。り。而。ふ。ゆ。ん。を。
 聖。恩。を。教。の。大。小。を。燈。を。法。ひ。安。淨。を。法。と。師。涉。深。經
 急の。優。艶。なる。善。美。小。交。く。以。身。準。確。を。分。ち。君子の。行。ひ。を
 法。ひ。を。と。鐘。鼓。齊。響。を。聞。ひ。し。人情の。感。を。可。ふ。事。也。

等もふはあはれや。花玉の裁測と云へり。時をく
鄙は歎と云れき。幸ひ小勸告の道は後り。邦有
夫く小式を加へ。童蒙見女子の好むを又か
案のふくもきまれば信有。信まれば勉す。そ
て。後ひ等。事てうき強さうき。古語に疑
退失と云く。疑へる癡移の田。一文も
桃李言をすしてう。人をかり見さる。の徳
せられ。自念小對し。席小あして。徳を利
あはれ。威儀と云へ。所稱禮の端と云興す
終小。風俗移るの候りとも云り。後曰安上治民莫
善於禮。其禮何の爲き。禮ハ礼と云ふ。集と云。

和して亂さる。の法なき。汝も擬諸其形容。其物
宜といふ。易の道と云つ。哲州本の長短。屈伸。殊
小。序して。其位小解。禮法小表。一和。勸
致も。己と云ふ。己と云ふ。己と云ふ。己と云ふ。
枝葉。あ。出。生。と。稱。言。何。と。礼。一。細。さ。ハ。自。た。き。ふ。な。り。
序。さ。ハ。た。さ。み。く。も。と。き。と。迎。へ。ひ。あ。は。れ。ハ。伸。ひ。て。さ。ま。り。
隨。ハ。衆。さ。ハ。者。子。森。一。ま。補。ひ。精。粗。本。末。の。以。身。と。な。り。
屈。信。相。感。而。利。生。焉。と。易。の。教。化。か。く。な。り。禮。讓。謙。退。の
極。と。云。伸。子。稱。し。言。早。討。復。の。分。ち。と。云。後。小。擬。へ。論。さ。
序。さ。ハ。み。く。美。小。一。善。小。進。等。の。皆。ち。を。不。導。以。遠。不。責。
民。之。所。不。爲。と。云。君子の教く亦。隨其所。堪。而。爲。説。法。皆

令歡喜といふ佛の導なるも。令して能く味ふ。其益なるも
あらず。必等閑小を得るありす

○飛情といふ有情と正法并三教五倫に當るものす

○同古州本に飛情をいひて。唯唯臨出車の爲と。世実
枝葉。肥瘦生衰の事あり。然るも又。一級小未ての
三教五倫の道と稱め。心を執し情と流し。理にいふ。形を
所小付くや

答 三教五倫の旨。名と稱は。柔れ也。理は。一級ありて
の體用也。其道といふ。物に天地のみならず。ありて。而も
れ。亦体くする。物あり。中庸曰道也者不可須臾離也。可
離非道也。爰といふ大道き。其大道ハ天道ありて。此に

聖佛の教ゆへ所。別業物帯び。執着する。法也。亦小小枝の
挿せり。いへども。三々の教と以て。せざる。より。其の興小
あす。いへども。三々の教と以て。せざる。より。其の興小
と。況んや。佛の度世之道。於一切萬物。而隨意自在と云
されたり。是万物一致なる。亦小。自在也。佛又草木の
善心。を其心飛情の物に。形として。んは。なり。枝の書
も。善の。道。修へる。も。を。修。取。る。なり。人。の。文。と。柔。れ
とも。ま。の。心。に。自。り。事。も。并。け。秋。の。落。葉。を。花。の。團
聚。の。心。に。修。い。ふ。あり。也。也。何。れ。も。人。情。并。落。小。連。る
ぞ。さ。れ。ば。新。経。小。草木。國。土。意。皆。感。佛。と。修。れ。又。易
の。觀。其。所。恒。而。天。地。萬。物。之。情。可。見。矣。と。有。益。子。と。有

物皆借我矣と伝けり。然る時に萬機一辨なる事明し
 けり。別形と五倫小比と云ふ。縦横長短大小として。君臣
 父子夫妻長幼の事小論す。参りて連枝と云ふ。兄弟朋友
 の信小擬す。以て瓶の類と云ふ。亦曰方以類聚物以羣
 命吉凶生矣安と云。集會以る物。必貴族長幼有る
 以。上下本末と云。別斜正と云。平の等。曲直と云。君子小人
 善隣と云。夫備あるの類。亦小心。瓶中之の玉と云。一
 君位小論す。陽と官と云。瓶と國と云。樽小天子別と云。
 の取たる。戴い事臣は快より。陰は善。之を技と有る。以の
 せり。市と方と云。ととて。地小順ふ。相と五形と兼帯
 び陰陽の媒として。中空。三陽の盈缺と資と福と云。

中央の冠と云。一作の冠と云。在
 前忽馬在後と云。顔子の事。然るに
 應に以てなり。別瓶重の三枝。三才三綱の模範と云。必
 一統小臨す。禮法と云。孝悌忠信の道と云。瓶
 以て。尚神儒教の道と云。凡俗小人の言をり。
 瓶と云。白地と云。貴と云。飾と云。瓶
 以て。物小論す。瓶と云。凡俗小人の言をり。
 古人と云。有玉厄無雷。寶非用。又曰。依人
 不依法。是是面合。能く味して。

○真竹草の辨。性容悟臧の事
 ○同云。瓶小真竹草の名有流も有り。或は是たると云

横へりし入也。瘡陽表裏とも考へる。唯水小育あて。枯
萎せざれば。出生をうへんはさうや。夫亦い令く。文質野俗
の教。人形と色一懸小。横へりし者之。凡物ありて能く
取有て用是し。此は猫ありて鼠と。或は犬ありて
と吼へし。蓋の具也。左横なる獸ハ相と。右はさ
古人も戒め。蓋しと。何するも相と。亦自然と。人
す。活也。活也の體。人法も人事も。則ち用之。世に
心有て。活を。と。然も人。竹を。出生と。意む。然も系の
奉。又も。形の物。さ。同あり。又も。悪と。相。相。同あり
又も。一。彼。是。十。目。の。視。不。十。年。始。可。う。て。天。眼。と。云
也。爰も。心。更。惡。也。不。及。の。院。自。形。れ。取。余。の。分。ら。明。之

同也。古語亦木。実盛則枝。害心。誠形。我。此。言。勢。今
目前亦樹木高。て。梢。大。也。時。弱。り。を。托。を。覆。す。枝
條。秀。て。長。き。時。ハ。千。捺。と。裂。く。竹。草。終。て。通。れ。ハ。莖。自。ら
折。け。枝。葉。繁。茂。な。れ。ハ。殆。と。甚。と。枯。る。之。其。高。從。來。疲。乏
深。ハ。冬。天。馬。不。似。此。而。有。り。夫。ま。又。隱。形。を。懸。れ。ハ。必。然
也。況。も。根。と。葉。ら。瓶。上。に。編。み。お。か。い。て。培。成。乃。度。量
なくんば。是。を。一。瓶。の。次。女。也。ち。新。あり。て。た。名。取。伸
上下。程。重。小。ハ。皆。自。然。小。さ。る。之。大。凡。天。性。竹。木。の。容。枝。條。東
も。な。れ。ハ。皆。必。西。に。昇。り。或。も。小。徑。ハ。忽。然。と。北。に。勢。ハ。縦。横
斜。正。を。從。表。裏。左。流。右。顧。前。俯。後。仰。並。小。造。化。の。趣。斯
の。や。爰。も。心。法。ハ。自。然。不。則。り。形。ハ。出。生。小。準。と。之。既。亦。天

地の廣大あり。人情の限りあり。竹や木は僅小なり。義と利を破れず。未得りあることと闘ふ。其の物と竹木の形小比くべし。争てゝ其の義や其の神小なり。皆其方角と設く大綱あり。師曠之聰末以六律不能正五音と云孟子の聲一木と云其理を明むなり。

○曲直殺活の毎内誓古の得の事

○同じ人の事ハありやと云物にて。直と云えれば直く曲くと云れば曲まるなり。必殺活むべきは。癖つく者なり。友小活殺すも。枝葉を為す直なるよりくす。死にきるを伸す。伸ひくは。死ぬるより生る。竹や木蓮松の直なる物。をせよと云ふゆり也。

答いには人情ハ福りや。心を抱きて。朱尔文をいひあけたり。吾意友ふるく。人の心の邪正ハ折ひ小直され。氣の強弱ハ形小出づ。思ひ内小あれを外小あはさく。古言禁小又くき。然ハ一時一興のをといふ。又恥辱と云ふ去なり。殺すもの形小連て。人情の偏より癖つくは形を。弓けづり矢造る樹の。人小福りて行小出づ。推う弓と割る。屈き。夫是深くを中ぬ。己々小あり。彼小あり。唯その強弱小あり。亦を形も大小厚薄曲直多岐と云。多能と云ふ。曲れるは勿論。直なるも。竹や木に真直なる。外の枝流ひぬれ。亦曲るも。竹や木に實水。水至清即無魚。人至察則無徒。狂而直

之。聖人の首弁して。一本筆第物の則きり。直るると
其程有事と察し。今既お都鄙。活世と歌ふ人多
く。猶同孤寂の友と。樂者も形く。唯人お迎へ
ん。又人こそとまほひ。流多く。其所りして。法をぬく
の。猶おぬめて。といふく。得西目として。いよく。その言きを
先とまほひ。親外愛形。ちよと事と。殆本意を
失ふ者解す。是等の人々の心ハ。曲直の道守ふ
あ。太他お。同む。このと。索。俗情のあ。不
より興。是なり。を名。同も。そ。及。と。け。む。の。一。方。ち。ぬ
や。と。折。く。そ。跡。を。放。た。れ。僻。を。流。れて。実。意。を。忘
者。大。小。号。子。と。ね。く。何。と。あ。く。ま。れ。る。を。是。の。奴。と。ぬ。て。

人の笑ひと文と。あり。能く考へ。あ。こ。被。野。第。の
曲直ハ。造化の自然。竹の曲形も。竹の若みと。あ。次
極の曲直も。梅の悪み。あ。次。其外。山。野。澤。池。の。用
本。教。科。と。ま。へ。も。皆。時。々。希。く。改。改。お。随。ひ。出。生。と。是。に
是。と。後。く。と。ほ。お。希。く。と。ま。へ。入。る。夫。の。際。ま。て。却。て。ほ
む。不。深。く。と。枝。ま。く。と。び。これ。も。あ。つ。ま。蓮。の。曲。も。を
せ。人。の。ま。ま。よ。して。甚。ま。ら。折。く。ま。も。事。と。改。く。人。の。こ
小人。や。ま。れ。ん。夫。も。曲。則。直。枉。則。金。後。あ。つ。ま
曲。直。ハ。陰。陽。好。美。の。う。り。所。て。物。と。取。り。伸。く。終。載。の
能。色。と。ぬ。ま。へ。へ。

○ 親中種正隆信の辨世長短詩歌の本

○同去花ハ一穂ハ幾種。葉車ハ此ノ一也。瓶史瓶花譜
等ノ唐以傳ル。二種三種ハ述スル。武ハ一葉ハヤト
亦二葉ナレハ。麻葉ハ以傳定スルモ有リ。武ハ稻花
ハ論ズバモアレハ。是ハ一粒ノ極モ有リ。何種モ
唯瓶ハ一入テ直也

答 いろ色二種三種ハ述スル事也。大要ハ等以極モ
優劣モ以述スル事也。去葉ハ其性狀ノ令也。移ル
セハ。モ一種ハめク今ノ次。上下陰陽モ右左伸ハ花
葉相對して。生立自ノ汁モ今ノ次。又二種三種トモ
麻葉相對して。生立自ノ汁モ今ノ次。赤一根ハ一穂ハ何ノ
何モ二三枝令テモ種トモ有リ。去葉ハ今ノ次

情 去物。武ハ花有テ葉ナキ物ハ。別種トカク。福ハ
。但瓶中以用也。數ハ大方ハ曲クテ。太キ物ハ二根
三根ナリテヤ也。武ハ並枝ナリテ細ク柔葉モ。五葉
七葉モ。形似少ノ葉ハ。其物ハ。形似ハ。好止也。諸
又去院大空ヲ補。杯ハ五ノ。原ハ器ハ。原ハ。原ハ。原ハ
去散狀ハ。三種ハ五種モ時宜ハ。何ハ。何ハ。何ハ
不有也。諸ハ瓶。表譜ハ。瓶花ハ。瓶花ハ。瓶花ハ
モ是也。夫ハ。夫ハ。夫ハ。夫ハ。夫ハ。夫ハ。夫ハ。夫ハ
ハ秋ノ。千種。咲交ハ。席上ハ。移テ。實密ナ
對モ。争ハ。争ハ。争ハ。争ハ。争ハ。争ハ。争ハ。争ハ
形ハ。一穂ハ。一穂ハ。一穂ハ。一穂ハ。一穂ハ。一穂ハ。一穂ハ。一穂ハ

夫木の鏡と指古ある海。今高流小傳少所ハ。先凡ハ甚
カ括校シテ海。或ハ疑ハ以テんたウ女郎也。亦ハカクヤ
小車の類と初めト。言々カテ出所相違也。二種
三種添ク五種存也。形状繁雜多ク。概小類ビ夫ク
の趣と歌々云。別瓶花の本意ト云存。那々蔭簇と
トテ事ト云人。彼唐詩の歌行。我國の方々集の長奇
の如キ。天地山川四時人情。以テトテ述テ所如ク。一
句一字を儀小叶ス。ハカクれト云。其事繁長カテ
意味深ク。一言小案。一ウカク。却る候身ハ。五七言
の絶句。三十一文字ト云。味ハ厚キ小似ト云。其道堪
能人ト云。多クト云。云云。院ハカク増テ漢學未熟の上ハ

をい〜及ばさ〜と云て。至ま〜小比〜云々。茶を〜道の
仇カテ。必志神の悪〜にせ海〜

○同流交種の緋州本末傳説の事

○同古世に流布する活也。多分茶都の條流カク。然
以。此形ハ白濁法式カモト。其茶造〜物〜ハ。右に
モ未ト汲者。終〜トテ本末高実ト云ヒ。其〜カハ
奇怪遺恨と披む法も有。是ホハ。河カ傳也。
茶吾他ハ。云々。以テ。同流同流ト云。ホ。未〜カモト。カ
吾水上意ハ。出カ。實カ。モ有。或ハ。娘社の傳ト
カ。ハ。陰〜和流と云。古傳ト名ト云。其カ。一カ
檀美カ。モ有。或ハ。形状美カ。ト云。式法均シカ。モ有。

衣其名を續友。流末らるるもの。實に其時く是達の
 子孫に始功者子幼者其以。向くの子孫有て我々を
 易き安のものと。考して人未傳。其時身を新變く
 一葉せしむ。何事も時勢の弊を流れた。其年と
 失ひ。後の友録い。なる有。事論止まると。何事も甲乙
 有る。然る務者とい。人といは。仇と法の端あり。
 敵白他の素熟。我々不測に小いたる。我々能其
 我々徳。人尊は。根小濟。とまられ。己。初る。其
 事杯。尚い也。唯子前。不道矢の薄を根小掛。師祖
 是達く。汚名と増つ。今都鄙。此技と教て。事の
 至淺き。所なり。是達以。上の教多出来て。中末信

業の為なり。或る名の同く求め。初ら素熟の
 厭き。秘事と授け。口傳と愛て。謝物とむ。其
 とありぬ。其傳授の爲。偽らぬ。右の拙き。一
 らり。是達の。陳。補せ。この法。秘事と。實。其。所。一。傳。萬。己。亦。夫。名。同。傳。一。丑。の

者也。抑師の範にして人を教ゆに。道と云ふは稱号
なり。戲も先達師と呼ぶ。字義は二つあるに返り
と恥ぢしむる事也。凡大小等早と云く傳藝
技の常として。秘事は傳と云事有。其者の執心は隨
ひ。技術の位は應。授る事なると。然るを初
未熟の願あり。又授秘傳と云是を先師無人とする
者也。大方に我の藝の未熟ある所より教る業流く。先
達の器不あると人知り。用ひし。此と云れ。或
同する人をも拙きと目せり。授まると事と云。此
亦も利欲の端に指し其心と云り。其人と指し止る
為ふ事は者も也。夫木の先達は必初心未熟のとはり

矯勝不実を勤め。兎草毒家と初惑し。身事悪事と導く
。歎う。まは身也。抑活志の取ひも。凡流の一事なれば。
必候と云一。古瓶器物も。際此あると云。此も。此
尚茶室の志は古より。連綿として其藝有る。夫くの門
に入て学ぶ者。今書院生教の志は玉て。唯其流乃
名の。何。者子や。其藝立は其流より。同也。
○實物常盤葉と用ゆ。奇咄怪事の事
○匠之流派の傳。花散く實と云。一物と。志なき常
盤葉の類。活志の貴敬なり。として用ひ。亦用ゆ。こそ者ハ
必也。常物と云。別な葉り。株枝枝多物候。嫌ひ用ひが
るる。是ホハ何れも傳也

答夫亦其門の控され。其流りてハ兔も角も五〜。
 而て他子興あぐらる事ことありあ〜。其形々。其を小あり〜。
 秋の飛山乃り〜。江糸の青柳。其葉葉の芽めぐ〜。
 生まるる草の姿ハ。優あやせめと〜。争まて〜。
 め〜。亦風出〜。花はなと〜。瓶びん意い〜。
 ハ〜。枝えだひ〜。梢すゑ玉たま。夫〜の容かたちハ。
 孤こ寂じやく養やう意いの〜。唯ただ〜。殺ころ害がい草そうの〜。
 の〜。其外そと事こと子こ陸りくハ。海うみ慈あはれ慈あはれ忌いの〜。別わか〜。
 比ひ傳でん也や。年とし寒ふゆ〜。松まつ栢ぼくハ。近ちか〜。
 蒼あはめ〜。人ひとと〜。尚なほ〜。下した〜。平ひら
 地ち其その乃の〜。青あお葉は証しやう實じやくの〜。其その色いろと〜。何なに〜。

此こ無な〜。有あ〜。美みを〜。古こ手て子こ〜。み〜。
 陰かげ〜。青あお柳りゅうの〜。又また〜。
 喜よろこび〜。思おもひ〜。
 物もの〜。思おもひ〜。
 限かぎ〜。
 千ち里りの〜。

修年若其人く婦女は怒り。師を号して経途が師く云へ
こら責めて。其者の形迹好悪とも察さず。友を犯され洗子
後引れて。その門子入るに。其の我情虚言と實との隔。忽ち
其口舌のなれて。人と稱。他を継り。さてハ新。きんも。此
後ふ素。つち。な。後して。悪。事。善。善。の。常。と。して。こ。う。え。あ。れ
同。ふ。事。も。事。ハ。即。飛。吾。惡。の。分。ち。と。あ。く。我。う。流。の。か。二。概。子
惡。こ。心。得。る。者。有。り。情。は。九。疋。の。情。積。一。疋。の。真。後。の。我。は。此
こと。却。ら。か。ら。い。ま。り。こ。う。て。笑。や。う。の。類。を。り。是。一。大。を。を。と
吹。れ。た。千。大。實。と。亂。ゆ。と。の。ま。ま。く。初。心。未。熟。あ。る。事。一。と
先。学。ハ。淫。學。の。ま。り。引。ま。り。初。心。學。び。の。事。ハ。其。本。神。を。我。は
親。外。受。取。る。様。も。是。こ。心。得。夫。が。上。子。尚。惡。を。所。ハ。久。覺

易く。其の覺へるる修年。又。今。格。の。心。何。事。も。先。入。の。所。と。か
れ。た。尤。ホ。宋。子。心。得。り。て。其。道。の。實。意。を。學。ぶ。一。且。我。の
心。徹。一。と。る。事。ハ。必。執。り。其。の。功。有。也。聖。人。ハ。い。ろ。は。の。文。字
と。習。ひ。受。く。ま。る。人。を。其。假。名。字。を。以。て。通。用。せ。れ。ハ。夫。丈。の
用。調。へ。り。然。と。名。同。の。と。ま。り。未。熟。せ。る。言。名。字。を。以。
て。其。心。を。あ。ら。ま。り。て。是。ハ。号。して。功。を。さ。す。所。あり。果。ハ。恨。と。所。
く。控。る。而。も。未。だ。却。る。其。道。と。議。る。者。也。亦。子。大。小。と。な。り。
我。ハ。力。が。け。り。少。く。肝。要。を。り。定。ま。ら。ぬ。と。し。て。其。心。を。さ。す。所。
亦。傍。務。者。の。癖。改。む。ま。ら。ぬ。失。意。を。し。て。其。心。を。さ。す。所。の。道。と
職業。恐。る。と。ハ。天。帝。と。其。の。授。學。ん。ま。ら。ぬ。人。の。道。其。教。と

術を人々日用の執りて。生瀝痛怠を術を人の
道に未熟はちかき苦あり。然るに多れは物に又思修む
取得難きといふこと。古語に良工者使手習知其器而器
亦習知其手は宜なる也。習は上智の人と云ふ也。然
るにざる事ハ容易ハ出ずかき事。坊や夫より下馬
至矣。猶更あき。既ハ物事學といふ也。好むハ得る事
あきと便好くと云ふ也。學びたればあき知ると云ふ。何
も念入く其甲斐あり。いふ由を惜むは便。操りて急
先節ハ何程も急ぐ。其の事功者よこれなれ。後急
遅速ハ心の修なり。む其上手と厭ふ人ハ有はる。れども
或ハ性質の強弱あり。或ハ其事小なり。好嫌勉怠の

連りて上手と下手と云ふ事。脊と合て東西を行み。旅ハ
の技也。得るといふ得る事と斗ふ事。眼能百里の外と云れ也。
我が眉毛の厚薄と云ふ事。あき。路次の遠近ハ行て後語。
其場と云ふは。其事と極ハ過也。何程氣象我情と云ふ。通
と云ふ也。彼田曲ち。枝葉と書院の大床。器相應ハ見分。數
と云ふ也。宋枝と集。夫ハの風神と云ふ。習ひ積む事也。
あき。過ハ瓶子並枝の。後横は左別。ち。二本や三本挿。得る
事有也。夫ハ時の偶中。して定規。ち。又近來。瓶中
ハ。配。而の具と用。ち。此枝。ち。底より折く。立花。習。用れ
ハ。是。才。も。益。取。も。増。き。自。然。と。式。法。ハ。備。此。道。全。ハ。整。と。語。曰
欲善其事。必先利其器。ハ。則。是。才。の。義。ハ。龍。是。り。那。ハ。羽。嬰

の未調する時とて、本意とを争ふ。又花配用するにつき、器物と損
を係るべきとや。夫の義は、配るべきに死す。其器は、
一人の其物と害なく、目前の定規之。安んじ、微少の事と係り
取らざる。卒尔、其器を、其義理と味する。器は、
父母の好むと喜て、害ある物と薦る類之。余も、実意薄く、唯
上む、斗と覺て、深、辨、事、皆預物あり、家、入用の前、
自在、生れ、者、何と、切、瑛、琢、磨、の上、小、大、怨、を、
山、も、端、と、て、省、身、養、意、の、一、助、を、ある、なれ、知、之、者、不、如、好、之、
者、好、之、者、不、如、樂、之、者、と、君子の、教、擇、其、善、者、勤、而、行、之、
佛の、尔、言、之、小、大、世、教、不、洩、る、事、あり、されど、此、を、不、志、なく、人の、
若、樂、版、安、有、一、枝、と、取、り、必、己、と、顔、て、樹、木、竹、莖、の、曲、折、を、

我、心、意、比、自、恣、放、志、の、僻、と、削、れ、剛、枝、風、子、割、れ、弱、柳、雪
を、凌、も、各、身、神、の上、推、高、く、被、子、擬、是、を、せ、能、堪、忍、ひ、て
株、直、ま、自、ら、習、ひ、性、と、ち、ま、違、う、人、木、受、繩、則、直、人、受、諫、則、
聖、也、と、彼、南、山、の、竹、は、空、の、傍、ま、並、み、れ、亦、夫、ら、上、も、括、而、羽、之、
鏃、而、礪、之、其、入、事、深、也、孔子、仲、由、子、説、命、を、小、の、察、し、
花、暫、時、の、教、と、す、世、學、を、ま、故、有、厭、へ、ん、後、編、を、終、り、
あ、る、倦、こ、勿、れ、然、れ、故、知、格、格、の、初、り、終、り、克、己、の、端、と、
興、る、人、物、の、察、一、物、而、貫、乎、多、と、聖、人、の、教、を、一、次、非、情、と、教
て、有、情、と、尔、三、教、の、旨、方、便、の、教、を、菩薩、の、濟、度、一、般
多、生、ハ、佛、の、慈、悲、羊、と、殺、り、禮、と、愛、む、ハ、君子、の、行、則、仁
の、導、り、て、各、權、の、指、標、也、彼、測、明、茂、叔、の、人、を、專、を、

種

操を均しく。天然の趣を樂む。在に庭州蔓られた。羅次列に改
 とくや。是亦、勢烈ある。限る君子は、亦、以、所、那、と、古、の、意、と、受、て
 其身を改めむ。真に其趣を慕ふ。志と行と學ぶべきこと也。唯
 恐る、身、同、く、口、以、言、而、ち、あ、ん、世、に、似、く、能、あ、る、物、有、此、の、苗
 也。似、く、驚、馬、の、中、小、も、形、と、嘶、斗、を、驥、騏、子、あ、ら、う、も、有、其、嘶、と
 形、の、相、似、も、と、心、驥、と、あ、ひ、ま、て、千、里、に、行、と、勉、人、と、せ、必、被、う
 奴、も、あ、り、て、生、涯、其、身、を、困、め、水、く、鞭、策、に、責、を、受、ん、也、亦、
 必、驚、馬、に、驚、馬、の、群、に、居、て、旗、の、任、と、貪、る、事、也、鷲、に、羽、翼、の、限
 を、ち、り、。蓬、蒿、の、間、を、天、地、に、て、其、易、を、に、游、り、將、に、鵬、鳥、の
 樂、も、子、均、く、あ、ら、う、。里、俗、の、淡、也、轉、の、真、似、も、鳥、を、水
 を、春、と、た、め、れ、己、を、歎、き、寸、と、心、尺、に、飾、る、我、將、の、邪、僻、を

く、ゆ、争、より、、龍、の、甲、に、似、せ、、穴、と、は、り、、以、管、窺、天、、柝、
 亦、よ、く、使、短、者、不、可、以、汲、深、と、、君、子、の、金、言、也、、さ、い、い、
 揮、も、亦、居、れ、、龍、小、山、、聖、人、の、教、も、互、れ、、可、も、た、く、、不、可、
 も、亦、秋、意、の、道、も、一、字、不、脱、、小、山、、亦、、以、て、況、や、五、小、の、枝
 と、也、され、、天、地、に、測、り、、さ、れ、、は、、変、化、、無、り、、あ、く、、人、工
を、、も、、こ、、と、、あ、、く、、と、、復、、損、益、、得、失、、首、尾、、亦、、て、、四、時、の、環
の、、旨、、若、、樂、、真、、明、、の、、若、、其、、需、、小、、應、、も、、者、、を、

古教子

こゝれとや、もみちのまゝ、神無居
 ねま、志、く、れ、子、あ、ま、ぬ、れ、れ、あ、ら、う、

○活花通用文字此事

○生活挿名音義、漸れ共皆相通てりけの字に用ゆ。右挿の字義理通れ共生活の字と信用する事久し。左不父の者も覺へ易し。

○花通花挿へ。右配りの名。配の字と通ゆ。是より風挿と云り。媿へるとは義也。亦面押の字も通ゆ。も有り。

○芒と倉上の瓶小瓶はと入るると云へり。入るるとは納なり。亦た右前後へ枝葉と扱ひ配ると遣と云ふり。遣は随へ送るの義なり。

○別種へ勿論同種ても交ゆる事。是物と云也。是ゆへ益の義也。亦下種待ひ根鎮せ云なり。

右據説同對へ中祖の旨と受く経傳と則り鄙言と厭ひは瓶意は意と述ゆ何ぞ斯か子たふことと経いく損くも云ふもやねんさるれを知らる青くの兒玉をんとを葉守原より人者云へりあれは事て他の係引と結去ちり有ふと云ふ事れは浅敷と渡りては後の字へり改むる人者て千萬又一も葉と云へり。あはれ先師の事懐予々事い此事いふる者ありと云雨

三十一
 之在子之困身之况然其法也
 之心之得非以操安何分曰其
 矣子之如舟也操之如舵之
 固矣其法之在舟之舵之在
 之操之在舟之舵之在舟之
 法然操舟之舵之在舟之
 安舒之操舟之舵之在舟之

之在舟之舵之在舟之
 法然操舟之舵之在舟之
 安舒之操舟之舵之在舟之

八人注九字富社月謹啟



青山御流活花手引種

桂月園泰雅著

畫工 百川子興

彫工 野代柳湖

津逮堂藏版

京都市三條通御幸町角

吉野屋 大谷仁兵衛

